

(7) 評価

今回の調査は、工事の実施において発生する騒音による環境影響の程度を把握するために実施した。

調査結果によると、北側敷地境界において上端値（L5）の測定時間内平均が 66dB、南側敷地境界が 67dB であった。

また各時間帯についても北側及び南側の敷地境界調査地点ともに、環境影響評価の予測値(84dB)及び特定建設作業騒音の規制基準(85dB)を全時間帯において下回った。

両調査地点ともに、隣接する工場から連続的または間欠的に発生する音の影響を受けており、仮に対象とする建設作業の騒音のみを選択的に測定できたとすれば、今回の測定値よりもさらに低い値であると考えられる。

したがって、工事の実施において発生する騒音が周辺環境に対して与えた影響は軽微なものであったと考えられる。

2-1-2 廃棄物等

(1) 調査目的

廃棄物等については、工事の実施に伴う廃棄物等の発生量及び処理・処分内容の状況を把握するため、事後調査を実施した。

(2) 調査対象

調査対象は、環境影響評価に係る予測及び評価で対象とした建築・設備工事に伴うガラスくず、陶磁器くず及び廃プラスチック等、土木工事に伴う残土やコンクリートガラ等、工事事務所の管理事務に伴う紙類や金属等とした。

(3) 調査方法

調査方法は、廃棄物等の発生量及び処理・処分内容について定期的に調査票への記録等を行った。

(4) 調査地点

調査地点は、事業予定地とした。

(5) 調査結果

調査結果を表 2-1-2.1～表 2-1-2.3 に示す。

表 2-1-2.1 廃棄物発生量集計表（建築・設備工事）

種類	単位	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	合計	予測	処理・処分方法
ガラスくず 陶磁器くず	t	2.25	39.90	242.40	24.30	308.85	257.30	適正処理
廃プラスチック	t	0.00	3.90	10.10	9.00	23.00	36.40	適正処理
金属くず	t	0.00	32.85	16.41	0.00	49.26	53.00	再資源化および 適正処理
繊維くず	t	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.50	—
木くず	t	0.00	2.00	22.80	15.20	40.00	52.90	再資源化および 適正処理
紙くず	t	0.00	1.00	31.20	5.00	37.20	31.80	再資源化および 適正処理
その他	t	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	6.00	再資源化および 適正処理
全体	t	2.25	79.65	322.91	53.50	458.31	438.90	—

表 2-1-2.2 廃棄物発生量集計表（土木工事）

種類	単位	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	合計	予測	処理・処分方法
残土	m ³	1,437.0	15,191.0	484.0	0.0	17,112.0	27,300.0	有効利用
コンクリートガラ	t	0.0	1,035.0	157.5	7.5	1,200.0	530.0	再資源化および 適正処理
アスファルトガラ	t	0.0	442.5	195.0	7.5	645.0	400.0	再資源化および 適正処理
金属くず	t	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	—
木くず	t	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	—

表 2-1-2.3 廃棄物発生量集計表（工事事務所）

種類	単位	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	合計	予測	処理・処分方法
紙類	t	0.0	0.2341	0.2795	0.0684	0.5820	5.34(t/年)	古紙リサイクル
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		—
金属	t	0.0	0.0007	0.0015	0.0001	0.0023	0.31(t/年)	リサイクル(再資源化)
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		—
ガラス類	t	0.0	0.0013	0.0000	0.0001	0.0014	0.23(t/年)	リサイクル(再資源化)
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		—
プラスチック	t	0.0	0.0341	0.0171	0.0118	0.0630	0.75(t/年)	リサイクル(再資源化)
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		—
その他	t	0.0	0.0983	0.0464	0.0126	0.1573	1.29(t/年)	一般廃棄物として
		0.0	3.6	4.8	0.6	9.0		適正処理
全体	t	0.0	0.3685	0.3445	0.0930	0.8060	7.91(t/年)	—
		0.0	3.6	4.8	0.6	9.0		
総合計	t	0.0000	3.9685	5.1445	0.6930	9.8060		

※上段は当組合、下段は工事事務所より発生した廃棄物量

(6) 評価

建設・設備工事に伴う廃棄物については、「ガラスくず及び陶器くず」及び「金属くず」は予測値とほぼ同程度の結果となったが、それ以外の項目については予測値を大幅に下回った。組成については予測どおり、ガラスくず及び陶器くず、金属くず、木くずの順に多くなっていた。

土木工事に伴う廃棄物については、残土について予測値よりも少ない結果が得られたが、これは環境への負荷の低減措置として、切土及び盛土のバランスを確保し、残土の発生を極力抑制した効果であると考えられる。他は、コンクリートガラについて予測値より多い結果が得られたが、これは造成時に旧炉のピットコンクリート構造物等が出てきたことに起因する。アスファルトガラについては予測値と同程度の結果が得られた。

工事事務所の管理事務に伴う廃棄物については、全体の結果が予測値と同程度であった。

発生した廃棄物については、再資源化及び適正処理を行っており、環境影響評価時の計画どおり、環境への負荷をおさえる配慮がなされていたと考えられる。

今回の調査結果においては、予測値と大幅に異なる結果となったものもある。その原因として、予測段階では新規施設に関する具体的な実施設計が行われていなかったことから、設定した事業計画等に基づく予測条件に不確実性が伴っていたことが挙げられる。